

## 地域と大学生の「金蔵」ブランドの立ち上げによる地域活性化及び里山保全

学生団体名：金沢大学法学類公認サークル 地域ブランディング研究会（金沢大学）

参加学生：野村詩織・濱本愛理・岡村諒・河村祥行・浅井泰貴・後藤聡一郎・佐々木遼

### 1、地域活動の概要

今年度も昨年度に引き続き、金蔵を発信する活動に重点を置いた。以前より継続的に活動を行っていた金蔵万燈会、今後継続していこうと考えている金蔵ツアーの開催、大学祭でのPR活動など地域の方々とともに金蔵の魅力を発信した。同時に継続的な金蔵の情報発信を目的としたブログの更新を今年度も継続するとともに、SNSを活用したPR活動も行い時代のニーズに対応した発信を行った。

### 2、地域活動の具体的な内容

◎8月14～17日 「金蔵万燈会」…住民約10名、学生30名

14日から学生が金蔵入りして手伝いをし、16日に本番、17日に片付けをした。今年度は事前に大学内で説明会を開催し、その結果多数の学生・一般のボランティア参加者、観光客が集まり万燈会は大成功といえる結果となった。参加者にアンケートを行い、金蔵の魅力と今後の課題点を見出せた。



◎12月8日、9日 「金蔵ツアー」…住民2名、学生4名

奥能登の伝統行事「あえのこと」を体験してもらうツアーを企画した。当日は交流会や金蔵の食材を使った料理を食べ、今後の金蔵の発展について話し合い今後につながる意見も出て有意義なツアーとなった。また、現在第二回金蔵ツアーを2月16日、17日に企画している。

### 3、地域活動の評価

今年度は積極的に金蔵を発信することができた。事前説明会を設けることで初めて金蔵に行く学生を多く連れて行くことができ、豊かな自然や万燈会の素晴らしさなど金蔵の魅力を十分に伝えることができた。また、万燈会当日はNHKによるテレビ取材もあり、メディアによる発信力も味方に付いた。SNSによるイベントの告知も行い、今後に生かせそうな発信方法を見出すことができた。

### 4、今後、この地域活動を継続、活発にしていくために必要なもの、及び課題

万燈会の際とったアンケートに「また参加したい」という回答を数多く得た。これはブランディングにおける「満足」の部分達成していると言える。しかし、まだまだ「認知」は少ない。金蔵を周知させるより効果的な方法を模索するのが今後の課題である。また、現在行っている「金蔵ツアー」のような継続的なイベントを行い、定期的に金蔵に足を運んでもらえる手段が必要である。

### 5、学生の感想

今年度は活動は有意義であったが、金蔵の方の意見を私たちが手伝っているという印象を持った。今後は自分たちから金蔵と関わっているという自覚を持ち、提案をしていきたい。

### 6、地域からの評価

今年度は、金蔵万燈会ボランティア募集、そして当日前後のボランティア作業企画をについて協力をお願いした結果、地域のパワー不足に対して多大な成果を見ることが出来たことが非常に良かった。

又、今後里山地域資源の魅力を探求し、地域に活かせるかの提案をより期待するものです。